〔図工科：実践事例１〕

第１学年図工科における「意味と内容」のひろがり

１年Ｂ組　北山　成美

ー題材「パスのひみつ」の学習をとおしてー

１．子どもに対するねがいと学習指導のねらい

パスは、１年生の子どもにとっては、とても親しみのある描画材であるが、絵を描いたり、色を塗ったりだけに終わっていないだろうか。つまり、動物の絵であったり、花の絵であったり何かテーマがあって、その絵を描くためにパスを使うことが日常的であったのではないだろうか。また、 絵を描くことは、好きな子もいれば嫌いな子もいるだろう。子どもたちは、どんな絵を描いたらいいのか、技能面でどう描いたらいいのかで苦手な子もいるだろう。

本単元では、とにかくパスでしっかりと遊んでもらいたい。パスにはさまざまな技法があり、その技法を知り、また、自分で新しい技法を発見していくことで、パスに魅力を感じ、パスを使って作品をつくる楽しさを味わってもらいたいと考えた。

誰でも簡単に取り扱うことのできるパス自体を、ころがしたり、こすったり、ひっかいっていき、「パスっておもしろい。」「パスのひみつ見つけたよ。」というふうに、子どもたちが、楽しみながらパスの技法を習得し、発見していける学習を展開したいと考え、本単元を設定した。本単元は、絵を描くのが苦手な子であっても、パスで遊ぼうという活動なので、リラックスして、あるいは夢中になって取り組むことができるのではないだろうか。

２．１年生の子どもがとらえた「意味と内容」

学習計画（全６時間:本時５／６）

第１次　　パスのひみつをさがそう・・・・４時間

第２次　「パスのひみつ」画を作ろう・・・１時間（本時）

第３次　「パスのひみつ」画の鑑賞・・・・１時間

第１次　　パスのひみつ

その１　型紙を使ったこすり描き・・・１時間

指でパスを伸ばしながら描くことのおもしろさを体験するため、型紙を使ったこすり描きを２種類試してみる。

紙を半分におり、中心部をはさみで自由な形に切り抜くとシンメトリーのおもしろい２枚の型紙（外側と内側）ができる。それぞれの切り口にパスを塗り、それを別の紙の上にのせ、下の紙にこすりつけるように指でパスを伸ばした後、型紙を外す。

今までのパス画とは違ったやわらかい模様ができてくる。子どもたちはこのおもしろさ

に夢中になって、さまざまな型紙を作ったり、模様を重ねる、色を楽しむという活動を繰り返し、自分なりのやり方を発見していくだろう。

その２　ローラー描き・・・１時間

パスに巻いている紙を取り除き、ローラーのように寝かせて描く。太い線で波打つような曲線を描いたり、真ん中を持って円を描いたり、ちょうちょのような形になったり、これも結構楽しく、子どもたちは、いろんな形を発見するだろう。

その３　スクラッチ・・・１時間

明るい色の上から暗い色を重ね、へらなどでひっかいていくスクラッチ技法を試す。へらでこするとどんな色が出てくるかという楽しみがある。色を重ねるところや重ねないところを工夫したりできる。

また、画面にセロハンテープをはることで防着色の部分もできてくるので、ほかの技法と合わせて試してみると楽しい。この活動は、セロハンテープを外すと一瞬にして画面のイメージが変わるおもしろさがある。

その４　重色・・・１時間

パスの基本は、やはり重色であると考える。色を重ねていくことにより深みがでてきたりするところがおもしろいところである。しっかりと塗りこんでいって、できた色を楽しんでほしい。

図画工作科の学びとは、ものとよくかかわり、ものと自分との関係をつくりだしていくことによって成立する。子どもが対象とかかわる中で、その子なりのこだわりがみられて、その思いをもとに、意欲的に活動を繰り返すことができたとき、意味と内容はひろがり、深まっているといえる。

つくりだす喜びは、対象と出合い、思いをもって対象とかかわる（追求している）中で表現の手ごたえを感じ、さらに対象とかかわり、試行錯誤しながら自分の思いやイメージに近づこうとしている（追究している）ときに初めて味わえるものである。

本単元は、パスをころがしたり、色を重ねて上からひっかく、こすってぼかすなどの新しい技法を習得していく（追求している）中で、それをおもしろいと感じ、さらに、自分なりにパスの新しい技法を発見したり、いろいろな技法を組み合わせることで、今までとは違った作品をつくりだしたり、もっともっとパスのひみつを見つけようとする（追究している）ときに、初めてつくりだす喜びが味わえ、「意味と内容」がひろがっていくのである。

１年生の子どもたちは、パスの技法に興味を示し楽しんで活動を続けた。そして、気に入った技法で、自分なりのやり方を工夫しながら取り組んでいったところに、「意味と内容」

のひろがりがあった。こすり描き、ローラー描き、重色、スクラッチと技法を試していく中で、それぞれにおいて自分なりの楽しみ方をしていた。

パスでさまざまな気に入った活動を続けるうちに、重色して色の深みに気づいていった子がいた。また、パスをこすったり、ころがしたりして、偶然できた形や模様を楽しみ、「今度はどんな形を作ろうか。」と考えながら活動を進めている子がいた。「意味と内容」がひろがっている場面であろう。

3. 「意味と内容」がひろがる場面

こすり描きをしている子どもたちは、形と色を楽しんでいた。画用紙を 2 つ折にして切り抜いてできる形を楽しむ子、型紙に塗った色を指でこするとき、隣に塗った色が混ざって、さまざまな色ができたのを楽しむ子、友達の作った型紙のおもしろい形が気に入り、それを使って色を塗り、こすって楽しんでいる子もいた。また、中型紙と外型紙でできあがりの感じが違うことを紹介すると、いろいろと試して楽しんでいた。できあがったこすり描きの上にまたこすり描きをして動物にリボンをつけたり、うさぎの目をつけたりと工夫が見られた。

型紙を使ってのこすり描きの楽しみは、型紙をはずす瞬間にあって、どんな形になっているか、型紙に塗ったパスを指でこするとどんな色合いになっているかである。このわくわく、どきどき感が子どもたちに新しい型紙を作らせたり、同じ型紙を使って、ずらしながらパスを指でこする作業を繰り返させていったようだ。画用紙を 2 つ折にして型紙を作るとき、偶然できた形を何か見立てる。次にはそれに関連したものを書き足していく。友達の作品を紹介したり、できた形からどんなものをイメージするか、どんなお話が作れるか聞いてみた。そうすることにより、一つの型紙からお話のある絵に仕上がっていった。

このこすり描きの型紙を作ることは、「意味と内容」をひろげていく第一段階になったといえるだろう。

ローラー描きでは、パスを横に引っ張る、縦に引っ張る、回すなど子どもたちはいろいろ試していた。真ん中を持って円を描いたり、ちょうちょにしたり、風車にしたり、虹を描いたりしていた。いろいろと試していくうちにいろんなかたちに見えてきたようだ。パスを縦に引っ張って、しゅるしゅると花火が上がる様子を表したり、何色ものパスを並べてくるっとまわしてしゃぼんだまを作っている子もいた。また、色を何色も重ねることが楽しくなってきて、画用紙一面にパスを力強く塗ってオーロラができたと満足気にしている子もいた。パスを波のようにくねくねに転がして、何回もずらしながら海を表している子もいた。パスを転がすだけでもできた形から想像力豊かに表現したり、こすり描きと組み合わせてお話のある絵を描いている子もいた。子どもたちは、パスを自由に転がしながら、イメージを膨らませているところが、「意味と内容」がひろがっている場面であると考える。

スクラッチは色を塗るのがたいへんだけど、割り箸などで絵を描いていくといろんな色

が出てくるのがとても楽しく人気があった。はじめてしたときは、色が薄くて引っかいたとき、はっきりと絵が解らなかった子もいたので、しっかりと色を塗ることを指導し、また、気に入ったものがあったら、切り取ってべつの画用紙に貼り付けてみるのもいいかなと助言した。そこで、スクラッチでつくった花火を切り取って別の画用紙に貼り付けたり、じぶんのお気に入りを切り取って貼り付けている子もいた。いろんな技法を選んで、また組み合わて作品を仕上げていくことで、「意味と内容」はずいぶんひろがっていった。

4. 成果と課題

「パスのひみつ」の学習をとおしての成果は、子どもたちが楽しみながら、自由にパスを使えたことである。自由の型紙を切ってこすり描きを楽しむ。できた形を何かに見立てたり、同じ型紙を使って模様のように描いていく。ローラー描きにおいても、スクラッチにおいてもそれぞれ楽しめた。パスで何かを描くというのではなく、パスで遊ぶ、遊びながら、何かに見立ててどんどんイメージをひろげて描き足していくということがねらいだった。

それぞれの技法を子どもたちは十分楽しめたが、いろいろな技法を組み合わせて、何かに見立てて、イメージを広げていくというところまでできただろうか。それぞれの技法を試してみるだけに終わっていた子も多かった。

今後の課題としては、このパスの技法をこの学習だけで終わるのではなく、自分のものとして、ほかの絵を描くときにも必要に応じて使っていくことができることである。一つの学習が次の学習へとつながっていくとき、「意味と内容」がひろがる学びができていくといえる。